

マレーシアの食品・包装産業の現状と課題 —開発途上国が直面するモノづくりへのアプローチ—

食品流通アドバイザー

(公益社団法人 日本包装技術協会 技術参事)

田中技術士事務所 代表 田中 好雄

Y. Tanaka

マレーシアはマレー半島南部とボルネオ島北部を領域とする国家で、公用語はマレーシア語と英語。首都はクアラルンプール、人口はおよそ3,078万人、国土面積は33万km²、1人当たりのGDP(国内総生産)は、US\$18,000。宗教はイスラム教。ブルネイ・ダルサラームとはボルネオ島北部のサラワク州で国境を接している。

マレーシアの農産物として、パームオイル、米、サトウキビ、ココナツなどが挙げられる。マレーシアから日本への輸出品として、パームオイル、カカオ脂、切り花などがUS\$2,350百万、日本からの輸出品として、鯖、アルコール飲料、ソース混合調味料、鰯、配合調整飼料などUS\$64百万が挙げられる。

この度、包装材料加工工場において品質の不具合が発生しその対策として工場診断をした結果を報告する。コンサルティングの基本として、①工程表の作成、②対象企業の概要把握、③不具合状況の精査、④SWOT分析、⑤調査結果の工場側スタッフとの協議・合意というステップを踏んだ。対応者として経営者、工場長、品質保証部長があつた。

本案件のポイントは、客先に納入した原反に、ピンホールが発生するという現象を現場で見発見するために、三現主義(現場・現物・現実)を基本とした調査を行うことであつた。そのために、工場建屋、設備・機械装置、原材料、作業工程、メンテナンス体制、人的資源管理、品質保証体制などに関して、作業工程を追いながら現場視察と議論を重ねて、原因を絞り込む手法を取っ

た。そのために、不具合品に関するチェックリストを作成して各項目に準じた評価とコメントを書き込んだ表を作成し、それに基づいて作業を進めた。



コンバーターのT-ダイ製膜装置

そしてSWOT分析(当該企業の強み・弱みを明確化する手法)から以下の結果が得られた。

- ① トップダウン志向の体制が強く、ボトムアップ、つまりワーカーを巻き込んだ双方向の情報交換が行われておらず、その乖離が不具合を起す要因になる可能性を含んでいる。
- ② 人材を育てていくための基盤づくり、例えば、朝礼によるコミュニケーション、不具合分析の結果の公表、小集団活動の実施、5S運動の定着などが必要である。
- ③ 設備の老朽化に対応するメンテナンス体制の強化、ゾーニング・レイアウトの見直し、不具合対策チェックリストによる管理などに力点を置くこと。

同社はISO 9001:2008年版を取得しており、ある程度の管理体制はできているものの、細かい点に配慮が足りないために、一部で不具合が発生する可能性があることを指摘した。企業は常に品質向上を目指し、経営者、中間管理職、ワーカーが一体となった取組みが不具合をなくす第一歩であることを「座右の銘」としていくことが重要である。